

# 英語能力 5分で測定

朝日新聞 2018年9月25日

岐阜大の牧秀樹教授（言語学）が、5分で英語能力を測ることができるテスト「最小英語テスト」（MET）を開発した。簡単な単語の穴埋めで大学入試センター試験や英検など長時間のテストの結果を予測でき、英語の教育・研究の効率化が期待できるという。

METは、A4用紙1枚に約70の単語の空所を設けた単語穴埋め式のリスニングテストだ。音読された英文を聞き取って、空所を埋めるだけ。わずか5分間の



最小英語テストを説明する  
牧秀樹教授（岐阜市柳戸）

## 教育・研究の効率化期待

シンプルなテストだ。

牧教授が16年かけて1万件以上のデータを蓄積して統計学的な処理をした結果、METで良い点を取った人は大学入試センター試験などでも良い点を取り、悪い点だった人は他の試験でも悪い点を取る傾向が高いことが分かったという。

二つの値の関連の強さを示す指標「相関係数」が0・4を超えると相関があり、0・7を超えると強い相関があるとされる。METと大学入試センター試験の相関係数は0・53、0・72、TOEICとは0・58、0・74で、高い相関があるという。

解、③リスニングと読解の総合、についてMETのスコアとの相関を調べると、③で最も相関が強かったという。

「何も考えずに聞き取った単語を書き入れているように、意味を捉えようとしているのか、あるいは入る単語を予測する力が関係しているのかもしれない。いずれにしても、METは英語能力の総合力を測っていると考えられる」。牧教授は分析する。

今後、テストを試すことができる本の出版も計画しているという。牧教授は「ゲーム感覚でスコアを伸ばそうという気になりやすいので、生徒のやる気を引き出せる。教える側にも問題作成が容易というメリットがあり、研究者は短時間でデータが得られ、測定も容易だ」と学習者・教育者

一見するとリスニング能力を測るテストにも見えるが、①リスニング、②読

（山野拓郎）